全社環境目的、目標（2006年度～）

全社環境目的と環境目標の一例

項目	環境目的	2006年度環境目標	取り組み
地球温暖化防止	2010年度において2000年度比国内単体でCO_2排出量を売上高で割った値（CO_2排出量売上高原単位）を10%改善する。	生産事業所合計で、CO_2排出量を総製造原価で割った値を2000年度比6%改善する。国内単体でCO_2排出量売上高原単位を2005年度比1%改善する。	省エネ活動 モーダルシフトの推進（モーダルシフト率28%） エコドライブ
資源の枯渇防止・有効利用	廃棄物再資源化率を向上させ、2010年3月末には国内全体でゼロエミッションを目指す。	国内全体で産業廃棄物の最終処分率を10%以下にする。 国内全体で一般廃棄物の最終処分率を20%以下にする。	廃棄物排出量の削減 分別と再資源化率向上 製品出荷時の梱包材の割合を改善する。

2006年度より全社目標・目的を新たに設定

2004年度までの環境負荷情報をもとに、2005年12月に全社環境目的・全社環境目標を設定しました。これまで、理想科学では、事業所ごとに目標を設定し環境保全活動を進めてきましたが、2006年4月より、全社としての環境目標・目的を設定して、活動を進めることにしました。

解説

国内単体

有価証券報告書の売上単体の範囲を示します。子会社を含まない理想科学単独が適用範囲です。

国内全体

子会社を含む範囲です。ただし、報告組織で述べたとおり3つの子会社を除きます

ゼロエミッション

ゼロエミッションとは生産や消費での排出物を他の生産や消費での材料として使用し廃棄物を限りなくゼロに近づけ循環型社会を形成するという概念です。理想科学においては総廃棄物排出量に対しての最終処分率を1%以下にすることをゼロエミッションと定義します。

最終処分率（%）=最終処分量（t）×100÷総廃棄物排出量（t）

最終処分量（t）

埋立処分量及び単純焼却処分量（焼却処理への持ち込み量）の合計

なお、中間処理業者における処理の残渣についても対象にする。その場合、中間処理業者実績または業者提供の最終処分率を採用する。（破砕処理のダストなど。二重計上となる単純焼却の焼却灰は除く。サーマルリサイクルの焼却灰は含む。）

総排出量は理想科学における不要物すなわち廃棄物および有価物、再資源化物として処理する量の総量とします。

総排出量および最終処分率は一般廃棄物と産業廃棄物について集計しますが、一般廃棄物の総排出量においては、そのまま廃棄した場合に一般廃棄物となる有価物、再資源化物も含めます。同様に産業廃棄物の総排出量についても廃棄する場合に産業廃棄物となる有価物、再資源化も含めて集計します。（添付：廃棄物関連の解説　参照）

一般廃棄物最終処分率（%）=一般廃棄物最終処分量（t）×100÷総排出量（一般廃棄物および有価物、再資源化物）（t）

産業廃棄物最終処分率（%）=産業廃棄物最終処分量（t）×100÷総排出量（産業廃棄物および有価物、再資源化物）（t）